

塩酸ドネペジルがアルツハイマー型認知症患者の睡眠におよぼす効果について：アクチウオッチを用いた検討

塚田 淳也¹⁾, 水野 創一²⁾, 川向 哲也³⁾,
清原 義明¹⁾, 松下 満彦¹⁾, 尾籠 晃司¹⁾,
稲見 康司⁴⁾, 西村 良二¹⁾, 堀口 淳³⁾

1) 福岡大学医学部精神医学教室

2) 三原病院

3) 島根大学医学部精神医学講座

4) 愛媛労災病院

要旨：今回我々は、コリンエステラーゼ阻害薬である塩酸ドネペジルがアルツハイマー型認知症患者の睡眠と認知機能、日中および夜間の活動量に及ぼす効果について検討を行なった。10名の軽度から中等度のアルツハイマー型認知症患者に対して、ドネペジル5mg/日毎朝食後投与を6週間行い、その前後で終夜睡眠ポリグラフ、ADAS-Jcog検査、アクチウオッチによる活動量の記録を行なった。結果として、投与前後において日中の活動量、REM睡眠、睡眠効率が統計学的に有意に増加した。また、日中活動量の増加度とADAS-Jcog得点の減少度とに有意な正の相関を認めた。ドネペジルが中枢神経系のアセチルコリン神経系を活性化しアルツハイマー型認知症患者の日中の傾眠傾向を改善した結果、日中の活動量が増加し、注意力、集中力の増加と認知機能の改善がもたらされたと考えられた。

キーワード：塩酸ドネペジル, アルツハイマー型認知症, 睡眠, 活動量